

第2章 注目技術分野における特許技術動向

食糧問題、環境問題、情報化は、いずれも社会的に関心が高く、これらの問題を解決する技術の進展に対する期待も高い。

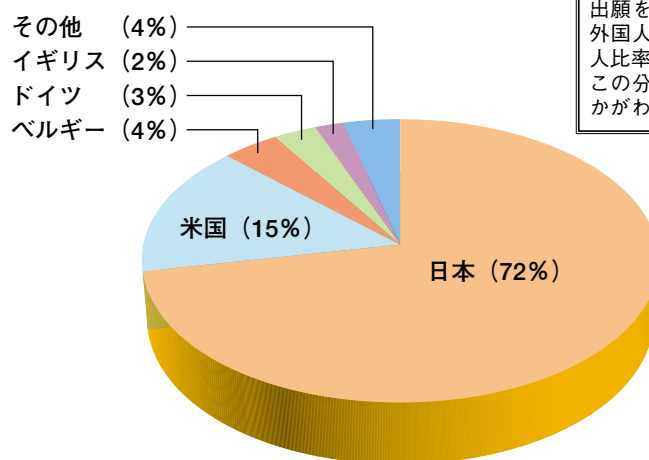
これら注目分野と関わりの深い技術として、遺伝子組み換え技術のイネへの応用、容器包装分野における環境技術やバイオテクノロジーの環境技術への応用、電子認証技術が挙げられる。

(1) 遺伝子組み換え技術のイネへの応用

コメは、日本、中国、インド、東南アジアなどで広く生産され、世界人口の約50%が主食としている重要な食糧資源である。このような背景の下、高品質なコメの安定供給を確保するために、イネの品種改良を行う技術として、遺伝子組み換え技術のイネへの応用が現在注目されている。

遺伝子組み換え技術のイネへの応用は、国際的なバイオ技術研究開発競争が激化する中、我が国がリードしている研究開発分野であるが、今後も、イネゲノムの解析と遺伝子の特定を精力的に進め、遺伝子組み換え技術をイネの品種開発に応用していくとともに、これらの研究成果について適切に特許を取得していくことにより、この分野における我が国の優位性を確保していかななくてはならない。

遺伝子組み換えイネに関する日本特許出願人国籍別構成



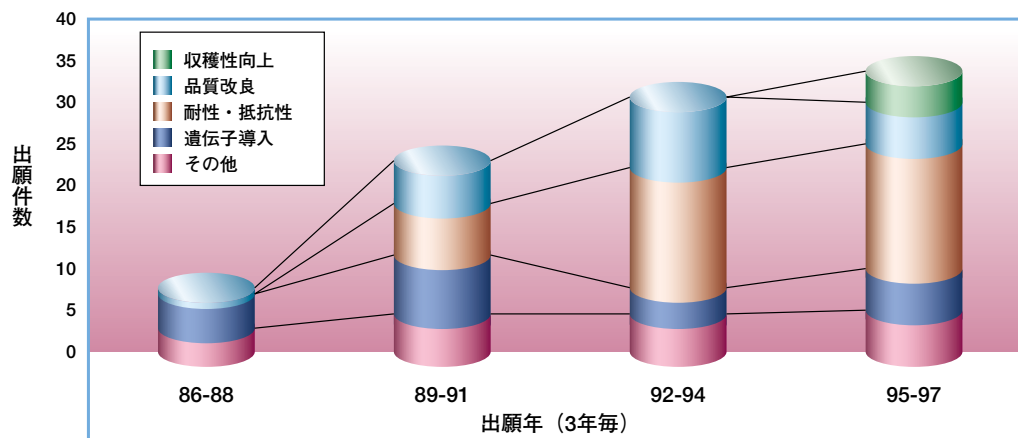
遺伝子組み換え技術のイネへの応用技術は、1986年に初めて出願された。本データは、1986年～1999年の遺伝子組み換えイネ関連出願の全公開案件98件についてのものである。

遺伝子組み換え技術を応用したイネ科植物の品種改良に関する日本特許出願は、日本人の出願が外国人の出願を圧倒しているが、この分野での日本特許出願の外国人比率（28%）が全産業での日本特許出願の外国人比率（15%）と比較してかなり上回っていることは、この分野が国際的な競争の激しい分野であることをうかがわせる。

遺伝子組み換えイネ関連出願の定義は、国際特許分類（IPC）のA01H（新規植物またはそれらを得るための処理：組織培養技術による植物の増殖）の内、A01H1/00（遺伝子形を改変するための処理）、A01H5/00（開花植物、すなわち、被子植物）又はC12N15/00（突然変異または遺伝子工学；遺伝子工学に関するDNAまたはRNA、ベクター、例.プラスミド、またはその分離、製造または精製；そのための宿主の使用）が付与された出願であって、「イネ」、「コメ」、「稲」又は「米」のキーワードも含むものとした。

遺伝子組み換え技術のイネへの応用に関連する特許出願動向は、1986年以降、出願件数が増加傾向にあるとともに、出願内容も多様化している。

遺伝子組み換え技術のイネへの応用に関する日本特許出願動向



1986年～1988年の遺伝子導入に関する出願から始まり、1989年以降は、除草剤に対する耐性や病害虫に対する抵抗性に関するもの、味などを改良するための品質改良に関するものが出願されている。1995年以降では、収穫性向上に関するものも出願されている。